

東京大学 海洋アライアンスイニシヤチブ「小島嶼国研究会」主催

シンポジウム

領土

領海

と 島嶼

こんにちさまざまな局面から問題となっている領土・領海の問題。しかし、歴史的にみると、領土・領海、そして公海も自明の概念ではない。本シンポジウムは、島嶼をひとつのポイントとして、18世紀～20世紀初頭の領土・領海概念を問い直す。そのなかで、島嶼自体、具体的な時代的狀況の模索のなかで認識されてきたことも浮かび上がってくるはずである。

2017年2月21日(火) 13:30～

東京大学理学部小柴ホール **事前申し込み不要**

モデレータ 杉本史子 (東京大学教授)

趣旨説明「海洋把握の変化と島嶼」

池内敏氏 (名古屋大学教授)

「竹島問題における島嶼の活用実態と領有権の主張」

高江洲昌哉氏 (神奈川大学等非常勤講師)

「統合される島嶼と排除される島嶼—近代日本の島嶼統治の経験」

西本健太郎氏 (東北大学准教授)

「国際法における領海・公海概念の歴史の変遷—18～19世紀を中心に」

終了後懇談会

*本シンポジウムは、領土・領海問題に対する具体的な政策提言等を行うものではなく、あくまで、学術的議論の場として位置付けております。

■ 東京大学小柴ホール 理学部1号館中央棟2階

■ 問い合わせ先: 茅根 創 kayanne@eps.s.u-tokyo.ac.jp

[参考文献]

池内敏「竹島—もうひとつの日韓関係史」中公新書、2016

高江洲昌哉「近代日本の地方統治と「島嶼」ゆまに書房、2009

西本健太郎「海洋管轄権の歴史的展開(一)～(六・完)」国家学会雑誌、125(5・6)、2012～2013

杉本史子「新たな海洋把握と「日本」の創出一開成所と業未維新」日本史研究、634、2015

